

私たちの生活に欠かせない「水」。日々の飲料水や生活用水として普段何気なく使っています。身近であるがゆえに、ついそれが当たり前のことだと考えてしまいがちですが、その「水」が一体どのようなルートを経て、ここ赤坂・青山に届けられているか、私たちが使った水はどう処理されているのか、意識したことはありますか？ そう考えたとき、実はほとんど何も知らないことに気づきました。

東日本大震災から3年。今改めて水の大切さを見直し、大切に使っていくために、赤坂・青山の「水」についてのさまざまな疑問について調べてみることにしました。

## にまつわるエトセトラ

### 赤坂・青山の水はどこからきている？

#### ●水源はひとつじゃない

東京の水源はほとんどが河川水で、多摩川水系19%と利根川水系及び荒川水系78%で成り立っています。数ある浄水場のうち、赤坂・青山へは、三郷浄水場、朝霞浄水場、三園浄水場と多摩川水系の東村山浄水場、境浄水場から送られてきます。

万が一、災害時などで滞らないように、さまざまな場所から供給されています。

#### ●東京の水源となっているダムと水源林

多摩川水系は、多摩川の上流、山梨県の丹波山及び小菅村、そして奥多摩湖として知られる小河内ダムの広大な森林を水源林としています。水源林とは、雨水をたくわえて土砂崩れを防ぎ、水質を保つために人工的に整備された森林のことです。一方、荒川・利根川水系の上流には矢木沢ダム、下久保ダム、草木ダム、奈良俣ダムなどがあります。



安定した水源を保つには欠かせない水道水源林を持つ小河内ダム(奥多摩湖)  
(写真出典: 東京都水道局)

日常生活の水の使用量	1分間流しおと	
	例え	ちょうど気をつけると
洗面・手洗い 1分間流しおと	12ℓ	歯磨き
歯磨き 30秒間流しおと	6ℓ	コップにくんで3杯
炊事 食器洗いなどで	60ℓ	ふろ 5分間流しおと
シャワー 3分間流しおと	36ℓ	洗濯の半分を洗濯・清掃 などに利用
洗車 流しおと	90ℓ	洗車 バケツにくむ
	0.6ℓ	30ℓ

日常生活では意外と水を使っています。流しおとにせず、こまめに蛇口を閉じる、節水コマをつけるなどして、節水に心がけましょう。

#### 江戸時代にはすでに水道があった!!

東京の水道の歴史は長く、江戸時代では上水とも呼ばれ、小石川上水(後の神田上水)や玉川上水、青山上水などが暮らしを支えてきました。享保7年(1722)に、神田上水及び玉川上水以外の4上水は廃止され、江戸時代の後半は、主に神田上水と玉川上水が江戸の暮らしを支えました。

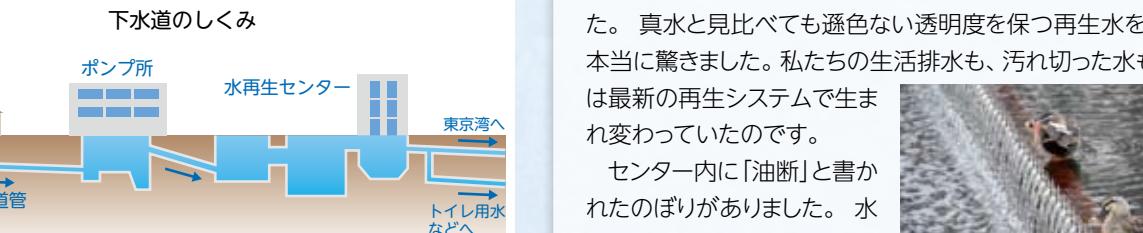
安定した水源を保つには欠かせない水道水源林を持つ小河内ダム(奥多摩湖)  
(写真出典: 東京都水道局)

### 私たちが使った生活排水はどうなっているの？

私たちが赤坂・青山で使用した水はどこにいくのでしょうか。家庭での日常生活や工場などの生産活動などによって汚れた水は、まず、下水として、排水管などを通って下水道管に入ります。そして、自然に流れる(自然流化)ように傾斜がつけられた下水道管の中を流れています。その後、下水道管が深くなり過ぎないように下水を地表近くまで汲み上げるポンプ所を経由して、品川駅近くにある芝浦水再生センターに送られます。

水再生センターでは、下水はまず沈砂池に入り大きなごみが取り除かれ、第一沈殿池でさらに汚れが沈殿させられます。次に微生物により汚れを分解する反応槽を通つて処理水と汚泥に分ける第二沈殿池へ、そして塩素接触槽を経て、一部はセンター内や近隣地区的トイレ用水として利用され、その他は東京湾(運河)へと流れさせて行くのです。

芝浦水再生センターの広大な敷地に広がる反応槽。ここでは、大量の空気を送り込み、微生物の力で汚れを分解します。



#### 水を使用する私たちができること

身边にできることのひとつは、油を流さないことです。油は、下水道管内で冷えて固まりやすい性質をもちます。このため、排水管や下水道管の詰まりや悪臭の原因となります。

東京都下水道局では、調理方法の工夫により油の使用量を減らした料理のレシピを「ダイエットレシピ」としてホームページに紹介していますので、ぜひご覧ください。

[http://www.gesui.metro.tokyo.jp/oshi/infn0284\\_5a3.htm](http://www.gesui.metro.tokyo.jp/oshi/infn0284_5a3.htm)

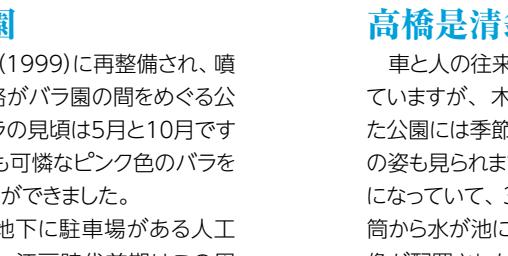
### 赤坂・青山の親水スポットを教えて！

かつてはたくさんの井戸があり、そこがコミュニティの場ともなっており、古くから水と人の暮らしは密接に結びついていたといえます。今は衛生面、安全面から使われることがなくなりましたが、今もまだ井戸が残っているところがあります。

現在の身近な親水スポットとしては、やはり公園内にある池や噴水でしょう。赤坂・青山で水に触れられる公園としては、青山公

園、氷川公園、檜町公園、高橋是清翁記念公園があります。また、根津美術館にある日本庭園もおすすめです(MAP A)。

神社の手水舎や、さまざまな建築物の周囲など、普段なげなく訪れているところにも水を感じられる場所はたくさんあるはずです。少し暖かくなったら、そうしたところを探して歩くのもいいかもしれません。



氷川公園

平成11年(1999)に再整備され、噴水からの水路がバラ園の間をめぐる公園です。バラの見頃は5月と10月ですが、真冬でも可憐なピンク色のバラを見つけることができました。

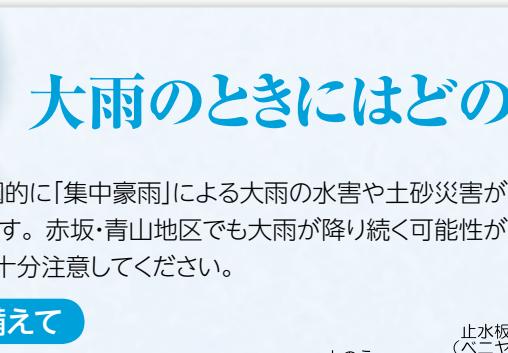
現在は、地下に駐車場がある人工地盤ですが、江戸時代前期はこの周辺は広島藩浅野家の本・分家の屋敷があり赤坂藩浅野内匠頭の屋敷もありました。



高橋是清翁記念公園

車と人の往来の多い青山通りに面していますが、木々に囲まれた落ち葉の公園には季節ごとの花が咲き、野鳥の姿も見られます。公園内は日本庭園になっていて、35年前に作られた組合せから水が池に流れ出し、石橋や石人像が配置された庭をめぐっています。

現在は、地下に駐車場がある人工地盤ですが、江戸時代前期はこの周辺は広島藩浅野家の本・分家の屋敷があり赤坂藩浅野内匠頭の屋敷もありました。



氷川公園

近年、全国的に「集中豪雨」による大雨の水害や土砂災害が相次いでいます。赤坂・青山地区でも大雨が降り続く可能性がありますので十分注意してください。

#### 大雨に備えて

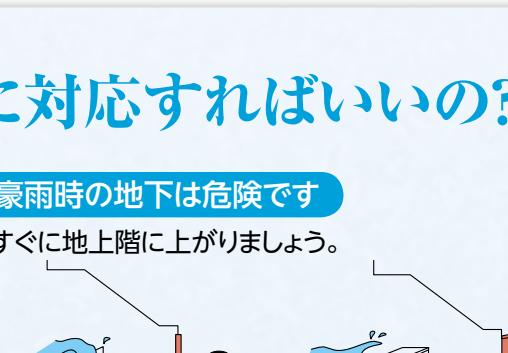
- 地下室や半地下室には「土のう」や「止水板」を用意しましょう。  
※地下駐車場など地下、半地下施設では排水ポンプの設置も考えましょう。

#### 大雨ます周辺の清掃にご協力をお願いします。

- ※雨水ますがつまるとき、道路冠水や浸水の原因になります。

#### 避難するときは

- 近くの高い建物や避難場所に避難しましょう。避難場所に避難する際には区役所に連絡をお願いします。  
※水深が腰まであるようなら無理をせず、高い場所で救援を待ちましょう。



豪雨時の地下は危険です

- すぐに地上階に上がりましょう。



※一気に水が流れ込み、水压でドアが閉めません。

※ビルの地下に電気設備がある場合、水没すると停電や感電事故のおそれがあります。

※エレベーターでの移動は危険ですので、使用は避けましょう。

#### 大雨後の復旧

- 使用した土のうは乾かしてから保管しましょう。  
※ぬれたままで次に使用できません。



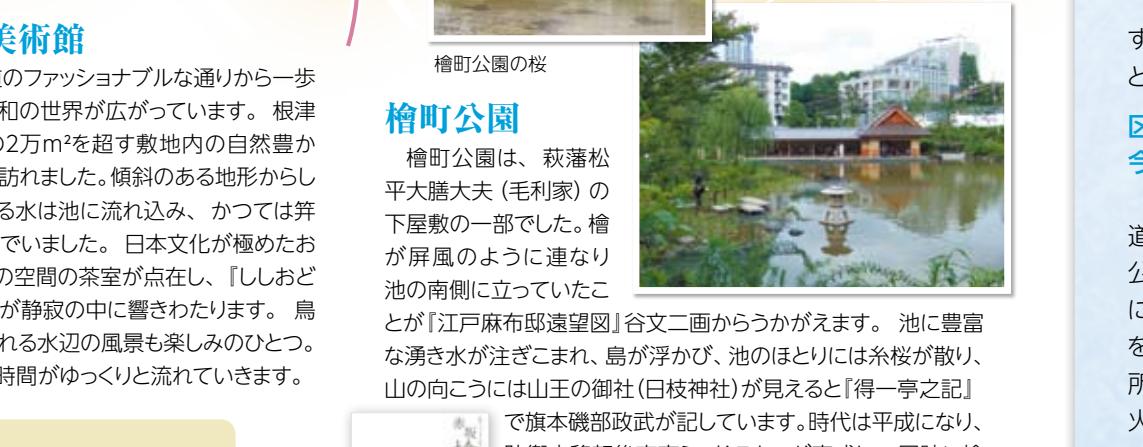
土のうは赤坂・青山地区は3箇所(MAP B)、ハザードマップは赤坂地区総合支所に配置しておりますので、ご活用ください。



App Store  
(iPhone専用)

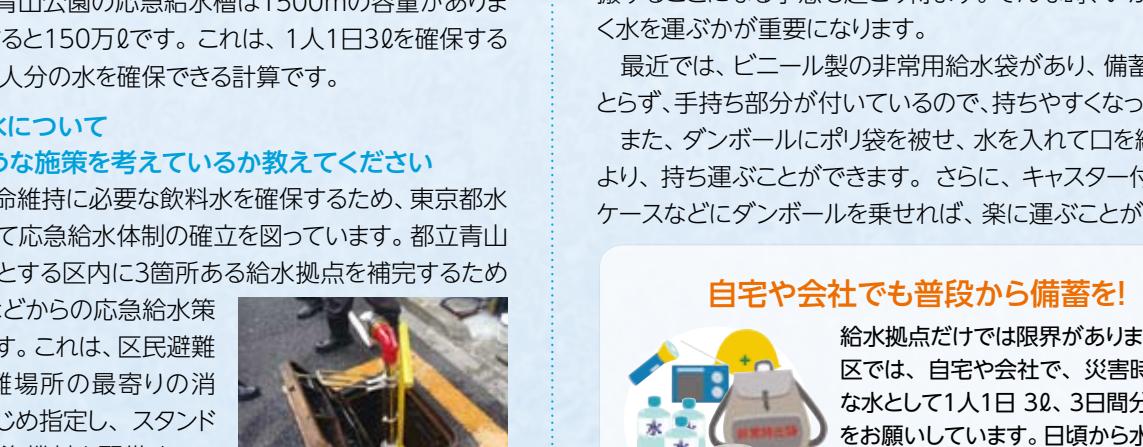
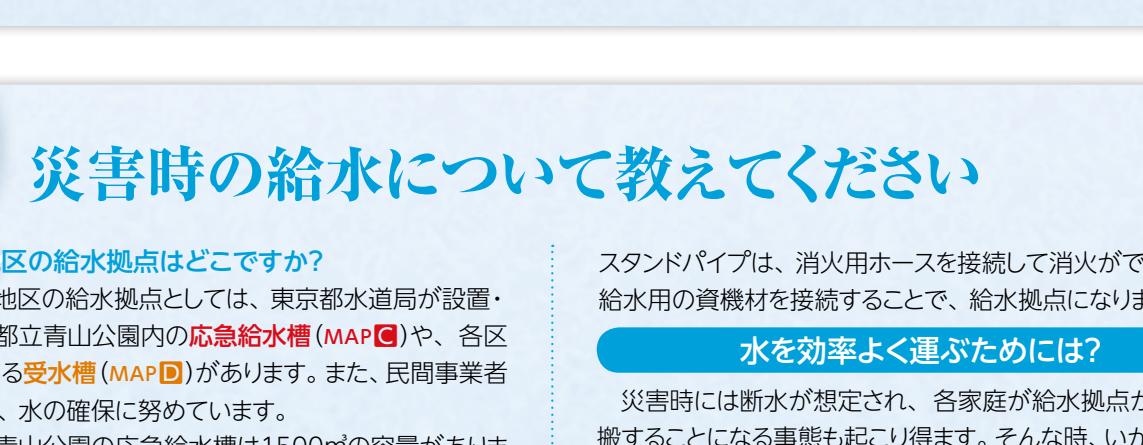


Google Play  
(Android専用)



根津美術館

表参道のファッショナブルな通りから一步入ると、和の世界が広がっています。根津美術館の2万m<sup>2</sup>を超える敷地内の自然豊かな庭園を訪れます。傾斜のある地形から少し進むと、水が池に流れ込み、かつては笄川に注いでいました。日本文化が極めたおもてなしの空間の茶室が点在し、「しおどし」の音が静寂の中に響きわたります。鳥たちの戯れる水辺の風景も楽しめのひとつ。ここでは時間がゆっくりと流れています。



#### 自宅や会社でも普段から備蓄を!

給水拠点だけでは限界がありますので、区では、自宅や会社で、災害時に必要な水として1人1日30、3日間分の備蓄をお願いしています。日頃から水や食料などを多めに購入し、貯め置きすることで、いざというときの備えとなります。